

シリーズ  
みんなの  
SDGs



# オレンジページ暮らし予報レポート



今回の  
テーマ  
**コンポスト**

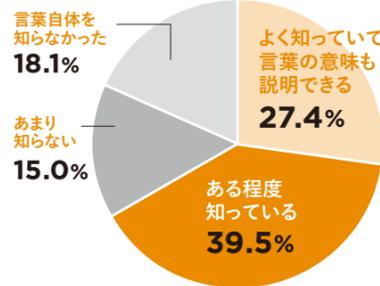
## 「生ごみを土に返す」 「コンポスト」に注目が集まっている

ごみの削減は、社会全体として取り組むべき課題のひとつ。その解決方法を探るなかで注目を集めているのが、コンポストです。コンポストとは、生ごみや落ち葉などの有機物を、微生物の働きで発酵・分解し、堆肥にすること（またはその装置）。読者の認知度は66・9%に上りますが、20代で35・6%、30代で51・4%と、若い世代ではやや低め。コンポストの普及活動を行う、たいら由以子さんによると、「生ごみを堆肥にして土に返せば、安心・安全な野菜や果物を食べることがができます。また、ごみの焼却処分にかかる費用や燃料、二酸化炭素の排出量を減らすことにもつながります。コンポストのしくみ自体は、日本で古

くから伝承されてきたもの。昨今、食の安全や環境問題を考えるなかで、コンポストによる「循環型社会」が、あらためて見直されているのではないのでしょうか。



Q「コンポスト」という言葉を知っていますか？  
(n=1572)



コンポストには  
どんなものがある？

庭の土を利用する「設置型」、容器を回転させて堆肥化に必要な酸素を生み出す「回転式」、生ごみと基材を入れてかき混ぜる「バッグ型」「段ボール型」など、いくつかの種類が。オレンジページでは、たいらさんが開発した「バッグ型」を使い、料理の試作で出る生ごみを堆肥にしています。「一般家庭の燃えるごみのうち、生ごみは約4割も。コンポストで生ごみを堆肥にして土に返せば、自分の手でリサイクルの輪をつくることができます」（たいらさん）。

始めたきっかけの1位は  
「生ごみを減らしたい」  
66.8%



ごみの削減以外では、「栄養豊富な堆肥が自分で作れる」59・0%など、より自然な堆肥を手作りしたい、という意見が目立ちます。「コンポスト容器の中には、微生物が生ごみをエサとして分解するときに生じる活動熱により、温度が上下します。そのため、容器の中には異なる温度帯で働くたくさんの微生物が混在し、自然界よりもスピーディに堆肥化が進むのです。私が開発したバッグ型コンポストは、自然由来の基材を使うことでより早く分解が進み、においを抑える配合にしています」（たいらさん）。



家庭菜園を  
している人の  
16.5%は利用中

コンポストを利用中の人は全体の4・8%でしたが、自宅で家庭菜園をしている人では、16・5%に達しました。実際に使っている人からは、「作った堆肥で野菜を育てて食べる→へたや根っこをコンポストに入れ

## コンポストを使ってみたら 「楽しい」という 声が続々！

いざ使ってみると、目に見えてごみが減ったことへの満足感や、堆肥化する過程そのものが楽しいなどの前向きな感想が集まりました。オレンジページのスタッフからは、「揚げ油をコンポストに入れたらとてもいい堆肥になった。油凝固剤がいらなくなっってうれしい！」という声。たいらさんは、「とくに都市部でコンポストを使い、循環の輪をつくるのが非常に大切。身近に自然との接点が生まれることで、食や環境に対する価値観まで変わるきっかけとなるのです」と、社会全体へのメッセージを教えてくださいました。学校の先生をしている読者からは、「生態系や環境問題について学びながら収穫も楽しめて、よい教材になりそう」という声も寄せられました。

●コンポストを使っていると  
よかったこと

やはり  
ごみを減らせたこと。  
30ℓのごみ袋を使っていたのが  
15ℓの袋で足りるようになって  
うれしい！  
(40代・フルタイム)



ごみの日まで  
待たずに  
処理できるので、  
においていやな思いを  
せずにすみます。  
(50代・パート)

食べ物を使いきる  
大切さを実感したこと、  
花や作物を育てる楽しみ、  
ワクワクした気持ちを  
味わえています。  
(50代・パート)



堆肥の使いみちは？

家庭菜園やガーデニングをしていない人にとっては、できた堆肥をどうするか悩むところ。自治体によっては、コンポストの導入に補助金が出たり、堆肥を引き取ってくれる制度もあります。たいらさんの会社では、できた堆肥と野菜の交換会などを不定期で行っているほか、堆肥を使用してくれる都市近郊の農家のかたを募集中とのこと。



## 今後試してみたい人、34.0% コストや使い方を知りたいとの声も

今利用していない人のなかにも、「家庭菜園を始めるので、気軽に導入できるならやってみたい」（30代・派遣）など、興味がある人は3割以上に。一方、使いたくない、迷っているという人の多くは、「においや虫の発生が心配」53・1%、「堆肥の使いみちがない」51・3%と回答していますが、においや虫については、コンポストの種類によって、ある程度防ぐことができるよう。また、費用や、どんな手間がかかるのか知りたいというコメントもありました。

暮らし予報  
明日はこーする！

## コンポストは、 キッチンから 未来につながる 取り組みになるでしょう

「食品ロスを減らしたい」「自分の家から出る生ごみを有効に使いたい」。そんな思いをカタチにしてくれるのがコンポスト。食や環境など、社会に点在するさまざまな問題をつなぎ合わせ、解決するチカラを秘めています。キッチンから始める、「よりよい未来をつくる」取り組みとして、今後ますます注目を集めていきそうです。